

独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議[議事要旨]

1 日 時:令和元年8月5日(月) 11:00~12:00

2 場 所:総務省第2庁舎 7階中会議室

3 出席者:(有識者)廣松毅(座長)、岩下真理、加藤久和、小林稔、津谷典子(敬称略)
(総務省統計局)佐伯統計局長、岩佐大臣官房審議官、井上統計調査部長、
佐藤調査企画課長、高部調査官、陶山課長補佐
(統計センター)植山経営審議役、布施統計情報システム部長、高橋情報技術
センター長、澤木経営企画課長

4 議 題:(1)平成30年度に係る業務の実績に関する評価(案)について
(2)総合評定(案)について
(3)その他

5 議事概要:

(1)総務省統計局から平成30年度に係る業務の実績に関する主務大臣による評価(案)の説明が行われた。

(2)質疑が行われた後、総務省統計局から総合評定(案)について、説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。

(3)有識者からの主な意見等は以下のとおり。

○効率化の実績が加点対象となっている。新しいシステムを導入することによって、一時的に多額のコストカットが可能になるかもしれないが、中長期的にみた場合、必ずしも効率化を進めればよいというわけではないのではないか。

むしろ、一時的にコストが膨らんだとしても、中長期的に質の高い統計を提供することができれば、高い評価に値する。例えば、国勢調査において職業アルゴリズムを導入したことにより、当初は多くの時間とマンパワーを費やしたが、結果的に作業効率が上がり、費用対効果が高くなった事例もある。コスト削減にこだわりすぎないことも必要ではないか。

○オーダーメイド集計について、提供される統計データの質は高いのに一般の研究者が申し込みづらい状況があるのではないか。研究者にとって、オーダーメイド集計の手数料が高いため、利用を躊躇されているということもあるようだ。手数料を下げれば収入は減るが、統計センターは営利目的の企業ではない。手数料を下げる努力が評価に反映されてもよいのではないか。

○匿名データの利用は教育にも効果的であり推進してほしい。

○各省ごとに統計技術の差があると感じる。府省全体のレベルアップを図ってもらいたい。

○全体的に、前年度はAだったものの当該年度はBとなった理由や基準が分かりにくいので、より明確に示した方がよい。全体評価についても、例えば「結論としてはBであるが、以下の点は評価できる(Aの事項について)」といった説明の仕方もあるのではないか。

○アウトプットについての評価だけでなく、アウトカムについての評価も必要ではないか。

以 上